
来る者拒まず去る者追わず

中村ジゴロウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

来る者拒まず去る者追わず

【Nコード】

N3595D

【作者名】

中村ジゴロウ

【あらすじ】

縁を稚拙に考えて書いてみました。

人の縁というものは、不思議なものだ。

おばあちゃんの言葉の受け売りだが、僕の23年の歩みを見てもその通りだと思えるのだからおもしろい。

縁と言っても色んな種類がある。

いい縁もあれば悪い縁もある。

それらはどこでどう繋がるか分からないし、どこでどう切れてしまうかも分からない。

だから、僕は人の縁を考えるのに「来る者拒まず去る者追わず」を採用している。

そのような考えのもとで繋がる縁はにぎやかで退屈しない。

また類は友を呼ぶのだろう。

気付けば不思議と周りには個性的な人達でいっぱいだ。

このままずっと楽しければいいなと思う。

しかし、不思議と繋がるのと同じように、不思議と縁は切れてしまう。

それは、こちらに原因があったり、向こうに原因があったり、自然

とそうだったり、実に様々だ。

切れる縁を考えると、寂しい気持ちになるが、それもまた縁なのだろうと思う。

切れる縁もあれば繋がる縁もあり。

縁の新陳代謝ではないか。

「来る者拒まず去る者追わず」というご都合主義な考えによって起こされる縁は急激であり、決して絶えなく、停滞しない。

楽しいことや嬉しいことが起きた思えば、即座に退屈なことや悲しいことが起きる。

逆もまたしかり。

その度に一喜一憂させられる。

しかし、その縁の流れに身を任せることによって、人という生き物は初めて健全な発達をするのだろう。

と偉そうに言う僕は賢者ではないので、何の縁が今自分を成長させているのか分らないが、ある縁による事件が一段落し、次の縁による事件の間に「あの時はおもしろかった」「あの時はつらかった」「これからどうなる」と考えられる自分に照れ半分で成長を感じる。

縁によって引き起こされるこれからは、とんでもない醜い暮らしをするかもしれないし、混雑を引き起こすかもしれない。

けれども、同時にその暮らしには活気が帯びてくるだろうと信じている。

新様式の工夫も起こってくるだろう。

栄枯盛衰も現れるだろう。

そうしてそうやって暮らすことによって、また別の縁が生まれてくるだろう。

「来る者拒まず去る者追わず」は僕の主義であって、これが常に僕の世に行われることを祈願するところだ。

（後書き）

うーん、カタクルシイぜ
www
www
www

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3595d/>

来る者拒まず去る者追わず

2010年10月19日23時21分発行